



ゆうぐれ通信

秦野はだのに生まれた歌人かしん

前田まえだ 夕暮ゆうぐれの一生いっしょうじゆう

1 明治16年(1883年)、誕生！
お家は今ないけれど…



2 明治35年(1902年)、旅の途中で運命の本に出会う！

みだれ髪がみ
与謝野晶子よさのあきこ 著ちよ

〈歌集〉
かきゅう

19才

この本に感動して短歌の道に進むことを決意する。

3 秦野にいながら文壇に投稿した歌が次第に評価されていく。



4 明治44年(1911年)、短歌の世界で当時トップクラスの雑誌を出した！



21才

明治37年(1904年)、東京へお引越し！
仲間ができて本も沢山つくったよ！

5 大正7年(1918年)、故郷の思い出 弘法山に家族で登った！

35才

故郷秦野を想う歌もたくさんつくったんだよ。

丹沢山

菜の花の相模の国に
鐘のなるあしたを夢は
ゆきてかへりぬ

夕暮先生の子供の頃は弘法山の鐘が毎時間聴こえていた。きっと故郷を思い出す懐かしい音色だったんだね。

6 68才死去

戦争や大変なこともあった。それでも沢山の歌や本を作り、多くの人に短歌の素晴らしさを伝え続けた生涯だった…。

答えは裏面にあります。

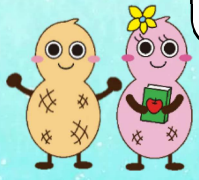
ヒント：二人は歌人だね

この時、友人に宛てた絵ハガキが秦野市立図書館2階の夕暮記念室に展示してあるよ！

①三崎のマグロを食べた
②短歌について語り合った
③三浦大根を買いに行った

偶然出会った友人の北原白秋と三浦半島へ行きました。二人は何をしに行ったのかな？

ゆうぐれ 夕暮クイズ コーナー





自然がずんずん 体のなかを
通過する — 山、山、山

意味 自然あふれる景色
が高速で流れていき、体の
なかを突き抜けていくよう
な感覚を詠んだ歌です。



この歌は、1929年(昭和4年)
当時、「最新鋭の飛行機に乗り、歌
を詠む」という新聞社の企画から
生まれました。東京を出発し、故郷の丹沢
上空を通過した時、山々の先端が、ものすご
い速さで迫ってくることに感動し、そのまま
の鮮やかな気持ちを夕暮先生は歌にこめて
表現したのだそうです。



夕暮記念室の展示を紹介します!

今なら、飛行機に乗って丹沢
上空から夕暮先生が感動した
心そのまま書いた葉書が図書館
の夕暮記念室で見られます!
「記念スタンプ」も押せるよ!



今も受け継がれる秦野の祭
「瓜生野百八松明」!
毎年8月14日のお盆の時期に
弘法山の麓で今も行われている
伝統的なお祭だよ。五穀豊穡、
悪霊退散を願って、大きな火が
ついた松明を振りまわすんだ!

クイズの答えは…②番(短歌について語り合った)だよ! わかったかな?

この記事は電子図書館でも見ることができます。そのほか夕暮ドリルもあるよ。やってみよう!
夕暮通信は第3号で発行が最後になります。これまで読んでいただきありがとうございました!

